

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	福本 信太郎
主な担当科目	合奏Ⅰ②,吹奏楽概論Ⅱ,器楽
2025年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	セメスター制が新たに始まり、新1年生を中心に半期で授業内容を完結させる意識を持ちつつ授業を展開する。 合奏授業や個人レッスンなど、それぞれの関わりの度合いによって学生との関係性や距離感を大切に、個々の立場に立つ学生が 従分に満足できるような教育環境を整えながら実践したい。
2025年の教育に関 する自己評価	担当する授業が元々半期完結であったり、学期を跨ぐ展開が必要な授業が多くなかったため、さほどの混乱もなくセメスター制初 年度を終えることができた。 学生との関係性においては、年度途中で新たに門下に加わる学生がいたり、性的マイノリティの問題を抱える学生も複数見られ、特 に言葉遣いや立場の尊重など慎重に授業展開することを心がけた。
2025年のFD活動 に関する自己評価	弦管打楽器部会や芸術特別研究分科会においては運営側として積極的に関わることができた。 全体FDについては限られた時間でありながらも毎回異なる視点で、かつ学生対応や授業に直結するような内容の講義があり、興 味深く受講するとともに自ら掘り下げて探究する機会を得ることができた。
授業改善のために 取り入れた研修内容	学内には性的マイノリティの学生が少なからずおり、アウティングの問題について、学生が直接相談に来る機会があった。FD研修に おいて、その概要や対応について知ることができていたので、私自身が多少落ち着いた気持ちで学生らと対話することができたと思 う。

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:870 教員名:福本 信太郎

1)アンケート結果に対する所見

“吹奏楽概論Ⅱ”の結果を見ると、全体的に学生の満足度の高い授業を行うことができていたと推察される。

Q5や Q6に見られるように、学生が興味や関心を持って授業に臨むことができおり、またその内容に工夫があると感じていることに本授業の理解度の高さが伺える。

一方で Q8の教育到達目標の達成度についてはやや低い結果となった。指揮の実践における個人差は大きいものであったが、個々の学生が受講前よりもスキルが上がったと感じられる指導が必要なのかもしれない。

“器楽実技”に関しては回答数が少ないもののほぼ 100%に近い数値が出ており、レッスン内容や学生の成長についても非常に良い循環になっていると思われる。

2)要望への対応・改善方策

“吹奏楽概論Ⅱ”の授業内容は実践形式によるものが中心であり、この授業での経験が中高生への指導に直結するため、中高生のスキルアップに即戦力としてつながるような指導法を意識して授業を展開していきたい。また吹奏楽界における最新の動向や情報を授業に絡めることで、本授業を学修した学生が現場に出た時に情報の発信者となり、さらに次の仕事へとつながるように私自身が常にアンテナを立ててスキルアップしていきたい。

教育到達目標の達成度を上げるためには個々への指導を手厚くすべきだ考えるが、それでは授業時間が足りなくなってしまう。前に立つ学生に指導すると共に、それが常に全体への指導につながるように授業展開に配慮していきたい。

3)今後の課題

授業の中心となる指揮法と楽曲アナリーゼの他に、マーチングやポップスの知識を増やすための授業を今後への課題としたい。特に後者については学内にスペシャリストが数多くいるので、他コースの教員への協力を要請しながら進める方法を考えていきたい。

“器楽実技”については全体にオーソドックスな選曲に偏る傾向が高いと感じている。学生個々の資質や趣向に応じて、より柔軟に課題を与えることができるように私自身が最新の作品から古典的な作品まで知識を広げる努力を継続していきたい。

以 上